平成20年6月5日発行（年4回3・6・9・12月5日発行）通巻86号

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

子どもたちの明日
Children, Our Future

2008年6月 NO.86

パンキアン地区保育所 © 小林正典

目 次

② 公立のモデル幼稚園に期待！ －タクマオ幼稚園の改築－
④ 物価高騰のカンボジア －保育所にも影響が直撃－
⑤ 研修修了生、トップ・キムレンさんが受賞
⑥ 国内活動：（特活）WE21ジャパンたま／株式会社ローソン／（特活）毎日新聞希望のネットワーク／ASSIST YOU 町田塾
⑧ ～連載寄稿～「青年たち」フォトジャーナリスト 高橋智史さん

幼い難民を考える会（CYR）は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。

公立のモデル幼稚園に期待!

－タクマオ幼稚園の改築－

カンダール州のモデル幼稚園『タクマオ幼稚園』の改築支援を行いました。
今後、先生や政府の教育担当者たちが集まって、
保育を考える『場』として活躍することが期待されています。

改築前の園舎の様子は・・・?

光が入らず、薄暗い雰囲気

壁にはいくつもの穴が

屋上の手すりは落っこちそう
雨漏りをしている

壁が剥がれて痛みが激しい
教室には、机もゴザもない

改築後!

屋上には屋根が誕生

教室の中は明るくなった

プノンペン中心部から車で走ること約30分。たくさんの商店や住宅がビッシリと立ち並ぶ賑やかな街の交差点の一角からは、子どもたちの元気いっぱいな声が聞こえてきます。ここは、約200人の子どもが通うカンダール州公立のタクマオ幼稚園です。教室には、CYRが配布した人形や絵本、文字教材がきれいに整頓され、壁や天井には色紙で作られたかわいらしいオーナメントが飾られています。幼稚園を見回すと、色んな場所に先生たちの楽しい工夫が見られ、狭いながらもこざっぱりとした清潔感が来る人を気持ち良くさせてくれます。

カンボジアの公立幼稚園は、政府からの予算がほとんどなかったり、先生が研修を受ける機会がなかったりするなど、「無い無い尽くし」の難しい問題を抱えています。先生たちの給料が不十分のために、急に用事が入ったりすると、簡単に教室がお休みになったりすることも日常茶飯事です。子どもは半日だけ幼稚園で過ごすのが一般的ですが、このタクマオ幼稚園では、めずらしい取り組みがされていました。保護者たちが先生に直接手当を支払って、子どもたちが1日通えるようみんなでサポートをしているのです。

厳しい境遇に置かれているにも関わらず、子どもたちの将来を考えて一生懸命努力している先生や、それを応援する地域の人々と出会ったCYRは、この場所が州のモデル園としての役割を果たし、他の幼稚園の先生たちが集まって実習できるような環境をつくるために協力したいと考え、古くなっていた園舎の改築支援を行いました。

改築式典

晴れて改築式典を迎えて。

2007年9月、現地の建築業者からのアドバイスを受けながら、大掛かりな工事が始まりました。そして2008年1月22日、痛みの激しかった屋上が一新され、すっかり生まれ変わったタクマオ幼稚園では、改築式典が行われました。この式典には、支援者である名古屋駅地区振興会の方々の他、カンボジアの州教育局長などのご来賓がありました。先生はじめ、子どもたちや地域の保護者の方たちも、とても嬉しそうです。屋上では、今後先生たちが研修会などに利用できるような広いスペースが、できあがりました。

今後に期待。

3月26・27日、カンダール州11郡から集まった公立幼稚園の先生たち22名と、州各郡の幼稚園担当者11名が、研修の一環として早速タクマオ幼稚園を見学しました。将来、州内に限らず、広くカンボジアの先生や政府の教育担当者たちが、保育を考えるための場所として訪れるような「モデル幼稚園」としての役割が期待されます。

■ 式典に参加された、名古屋駅地区振興会の成田和吉さんよりメッセージをいただきました。

カンボジア出張に際しましては、短い期間ではありましたが、なんとも濃密な5日間を過ごさせていただきました。タクマオ幼稚園の改築式典では、子どもたちの可愛らしい舞踊と、何よりも底抜けに明るい笑顔が、長旅の疲れを吹き飛ばしてくれました。一方、前日に案内していただいた何軒かの現実の暮らしぶりは、自分の想像をはるかに超え、カンボジアの光と影をただただ見つめるだけでした。それ以外でも、王宮のきらびやかさと、ポルポトの残酷な傷跡を残す施設とのギャップもいまだに埋めることができません。

平和ボケの日本に生活する自分にとって、大袈裟でなく人生観を変えるほどの「濃密な5日間」でもありました。今回カンボジアを訪問して体験したことを、振興会の各社・メンバーに報告し、今後の支援に結びつくよう努力をして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2008年1月29日

名古屋駅地区振興会　事務局長　成田 和吉

物価高騰のカンボジア

－保育所にも影響が直撃－

山極小枝子（CYRカンボジア事務所、保育担当）

カンボジア人にとって、なにはなくてもお米だけは、必要不可欠なもの。それなのにお米の値段が1キロ1,600リエル（50円）から2,700リエル（81円）にまで値上がりした。短期間に、いつ、どこで、こんな値上がりが決まってしまうのか。格差は広がるばかり。暴動が起きても不思議ではなく、とても心配だ。

これまでCYRは、カンボジアの子どもたちの健全な成長を願って、保育所の運営に携わってきた。子どもが安心して過ごせる場所があって、先生や友だちと遊び、そして何よりもお腹いっぱい食べられる給食のために、みなさまからのご支援をお願いし続けてきた。なんとかここまでやってこられたことに感謝しつつ、今後のことが不安になる。

例えば、バンキアン地区の保育所では、平均出席数44名で、お米は毎日4.5kgを使う。月に換算すると90kgだ。そして薪や炭、肉類、卵なども同じような値上げ幅である。その上ガソリン代は1リットル 2,800リエル（84円）だったのが、じわじわと上昇し、ついに5,100リエル（150円）にまで上がってしまった。

CYRでは、将来カンボジアの人が自分たちで保育所を運営していけるように、保護者から給食費を集めたり、払えない家族には仕事をお願いしたりする他、寄付呼びかけ、村人への小額貸付や、お寺での募金箱設置など、様々な努力をしてきた。それでもこの物価の値上がりにはとても追いつかない。今年は保育所で働く先生たちの給与を22%アップせざるを得ない。このままでは、自主運営に向けた取り組みも更に長引く。みなさまのご理解とご協力を切にお願いします。

※CYR「10円給食募金」は、物価上昇に伴い、10円では充分なメニューが出せなくなりました。現在、約20円かかっています。

日用品の高騰例（1ドル＝4,000リエル）
- 米 1kg: 1,600リエル→2,700リエル
- 豚肉 1kg: 8,000リエル→20,000リエル
- 鶏肉 1kg: 10,000リエル→22,000リエル
- フランスパン1本：500リエル→700リエル
- 玉子1個：250リエル→500リエル
- 米の麺1杯：2,500リエル→5,000リエル
- プロパンガス 10ドル→35ドル

織物研修修了生、
トップ・キムレンさんが受賞!

CYR織物研修センターの修了生、トップ・キムレンさん（20歳）の作品が、ASEAN AWARD OF EXCELLENCE IN ART AND CRAFT（アセアンアーツハンディクラフト展示会）で最優秀作品10点に選ばれました。入賞したピダン作品は、ナーガ（竜）模様が一面に描かれ、仕上げまでに3ヶ月を費やした美しい織物でした。

受賞トロフィー

トップ・キムレンさんは、2005年9月から2006年8月、CYRの織物研修センターで染色技術を学びました。昨年結婚し、現在両親と兄・妹・弟と一緒にタケオ州サムロン郡アンピル村で暮らしています。今年3月に無事女の子を出産してお母さんになりました。

織り作業の中で1番難しい括りという工程をとても早くこなし、修了生の中でも織り上げる製品数が多い織り手の1人です。2年前には、織物で年間$662.8ドルを稼ぎ、修了生のうち1番多く収入を得ることができました。

※修了生の年間平均収入は約200ドル

「入賞したナーガデザインの絣（かすり）地は、括りが大変難しく苦労しました。この模様には、一般的なカンボジアの絣のように、模様の周りを囲む菱形の線がない変わったデザインだったため、模様をデザインする糸束と、糸のドット数などを計算するのに特に骨が折れました。括るのに1ヶ月、染めて括り直してまた染めるのに約1ヶ月、その後8m織りあげるのに更に1ヶ月が過ぎ、完成までには約3ヶ月を費やしました。この展示会に入賞できて、本当に嬉しい。」と仕上げまでの苦労と喜びを語ります。

キムレンさんは、昼食時間と休憩の2時間を除き、朝7時から夕方4時まで毎日織物に励みます。「子どもが生まれてからは、織物を思うようにはできませんが、子どもが大きくなったらまた難しい柄に挑戦してみたいです。」と今後の意気込みを話してくれました。

■ ナーガ模様とは？

S字にからだをくねらせた双頭の竜2頭が組み合わされた卍形。

■ ASEAN AWARD OF EXCELLENCE IN ART AND CRAFT とは？

アセアン10カ国を対象に、織物・宝石・籠細工・陶芸・彫刻などのうち、文化的、伝統的、環境保護の諸点から優秀作品を募り、「伝統的なハンディ・クラフトの質のスタンダードを高め、国際的な市場の認識を高める」ことを目的に開催している展示会

キムレンさんの作品

★シルク製品販売予定★
6/14（土）アジア＆アフリカ布フェア（六本木ホテルアイビス）
7/23（水）～7/28（月）アジアの手仕事展（日本橋高島屋）
7/30（水）～8/5（火）カンボジアシルク展（新宿高島屋）
みなさまお誘い合わせの上、是非ご来場ください。

国内活動

－ありがとうございます－

CYR カンボジアの活動は、さまざまな日本での協力に支えられています。

今日生きる糧に　© 小林正典

『世界食料デーをきっかけに』

特定非営利活動法人
WE21 ジャパンたま
代表　戸高 仁子 さん

私達 WE21 ジャパンは、「もったいない」という気持ちを繋いで、地域にリユース・リサイクル事業を行う WE ショップを開いています。収益で海外支援を行い、支援先の方々と顔の見える関係を築くことをめざしています。WE21 ジャパン本部と連携して、神奈川県下で 32 の WE21 地域 NPO が 54 の WE ショップを運営しています。

昨年 10 月 16 日、世界食料デーに「思いをはせようキャンペーン」を企画。各ショップの当日の売り上げを、3 つの NPO/NGO 団体の海外支援事業へ寄付させていただきました。その1つが、CYR の「10 円給食募金」です。私たち「たま」も含め 9 つの地域 NPO が売り上げを寄付いたしました。ささやかな金額かもしれませんが、多くのお客様の参加と共感が寄せられ、お客様やボランティアさんと共に、支援先の方々へ思いをはせる良い機会をいただきました。その後、事務局長の峯村さんや広報の福田さんはじめ、現地の関口さんからも丁寧なカンボジアでの活動報告をいただき、5 つの地域 NPO から CYR の活動への寄付に繋がりました。「みんなで布チョッキン」も、楽しく参加できる支援企画として地域で開催されています。「いくつかの地域NPOでスタディツアーを一緒に企画して、カンボジアを訪問できたら・・・」と今後への思いも膨らんでいます。

保育所の子どもたち　© 小林正典

『ポイントカードで社会貢献』

株式会社ローソン
サービス本部　カード戦略企画部
馬淵 浩二 さん

ローソンでは、「私たちは "みんなと暮らすマチ" を幸せにします。」という企業理念に基づき、地球環境や地域社会に対して思いやりの気持ちをもって、環境保全・社会貢献活動に取り組んでいます。

そして、日頃ローソン店舗をご利用されるお客様が、社会貢献活動に参加できるようなお手伝いをしていきたいとの願いから、幼い難民を考える会ご協力のもと、ポイントカードに貯めたポイントで参加できる "環境社会貢献コース" に「カンボジアの保育所運営支援」をご用意しました。

2003 年より展開を開始し、この 5 年間、ローソンを利用される多くのお客様にご支援いただいております。明るい未来を支える子どもたちが、安心して暮らせる環境づくりに、多くのお客様に賛同いただいていることは、感謝の至りです。今後も 1 人でも多くの子どもたちの笑顔につながるような取り組みを続けてまいりたいと存じます。

『世界子ども救援金』

特定非営利活動法人
毎日新聞希望のネットワーク
常務理事　藤井　英一 さん

バンキアン地区保育所　© 小林正典

毎日新聞希望のネットワークは、幼い難民を考える会の活動の一助にと、このほど読者から寄せられた「世界子ども救援金」50 万円を寄託させてもらいました。

「カンボジアの子どもたちが健やかに成長し、親も自立できることが、難民を出さない平和な社会に通じる」という団体の活動理念と実績に敬意を表してのことです。

毎日新聞希望のネットワークも 02 年度から 07 年度まで、カンボジア盲人協会の職業自立プログラムの支援を実施してきました。本紙 3 月号の 1 面「バンキアン地区保育所で学ぶ子どもたち」の写真を拝読、「子どもたちの笑顔は地球の宝」と、改めて痛感しました。毎日新聞希望のネットワークとしても今年 6 月に、毎日新聞大阪本社の記者とカメラマンの 2 人を中央アフリカに派遣し、救援キャンペーンを予定しています。「子どもたちの明日」のための一助になればと考えています。

CYR 事務局へ募金を届けにきてくれた生徒さんたち

『生徒がバザーで寄付』

ASSIST YOU
町田塾
塾長　秋元 すがよ 先生

私ども“ASSIST YOU 町田塾”では、授業のカリキュラムに 7 つの習慣 J というプログラムを取り入れております。その授業で、カンボジアで地雷撤去活動を続けている自衛官の話や幼い子どもたちが飢えに苦しんでいるなどがありました。その話を聞いた一人の生徒が、フリーマーケットを家族とやってお金を儲けた経験をみんなに話し、自分たちもカンボジアの子どものために、バザーをやって寄付をしようという事になりました。

2 回のバザーで約 11 万円を収益としてあげ、ボランテイアで続けている地域のゴミ拾いのために半分、そして、この幼い難民を考える会に 6 万円を寄付することが出来ました。

この幼い難民を考える会のことも、生徒たちが自分たちで調べ、ここに寄付したいと提案してきました。この会との出会いは偶然が重なったのでしょうが、何か縁も感じます。

私どもは、今後もこのボランテイア活動を続けていきたいと考えていますので、これからも是非、協力をさせていただきたいと考えております。

地雷原の中でひと時の休息を楽しむ地雷除去隊員

『青年たち』

フォトジャーナリスト　高橋 智史　さん

今年1月、一時帰国をした際に東海大学のある授業で、カンボジア取材記を話す機会があった。来てくれた学生さんは皆、19、20歳の青年たちだ。2コマ180分の時間はあっという間に過ぎ、先生の意向で授業の終わりに感想文を提出してもらった。読んでみると、彼らが一番共感を示してくれた部分が重なっていた。それは、彼らと同年代のカンボジアの青年たちが、地雷除去活動をしている話であった。地雷原の中で、ひと時の休息を楽しんでいる彼らの表情が、私自身の中にも強く残っている。

「家が貧しいので活動に応募しました。両親は心配しているけど、自分の村を安全に出来る仕事ができて嬉しいです」と彼女は言った。

ここは地雷原。ピー・ソピアさん（19歳）は地雷除去隊員の中でも一番若い女性だ。素顔には、少女のあどけなさが残る。周りを見渡すと、彼女以外にも多くの若い女性が、地雷除去隊員として活動をしている。

活動地はバッタンバン州カムリエン郡タサエンコミューン。タイ国境が目前の、小さな村々が集まる地域だ。ここではNPO法人、日本地雷処理を支援する会（JMAS）とカンボジア地雷処理対策センター（CMAC）が協力関係を築きながら、「住民参加型地雷処理活動」を行っている。ピー・ソピアさんは「最初は怖かったけど、今は怖くありません。活動を始めてから今までに3個の地雷を見つけました」と、真剣な眼差しで話してくれた。この日も地雷が見つかり地雷の爆破処理を行った。

タサエンコミューンの村々から地雷が完全に除去されるまでには、あと12年の年月がかかるといわれている。極限の緊張感の中で、これからも毎日地雷と向き合う若い隊員たち。「お昼休みの時間が一番楽しい時間です」。皆が口々にそう話し、今日も地雷原のど真ん中で、ひと時の休息だ。身を守るプロテクターを外して'普通'の女の子に戻った彼らの笑い声が、穏やかな風に乗って地雷原の中に流れていた。

●高橋智史さん、プロフィール●

フォトジャーナリスト。1981年10月6日生まれ、秋田市出身。高校卒業後、日本外国語専門学校国際ボランティア学科入学。その後、日大芸術学部写真学科で写真を学んだ。カンボジアを主に東ティモール、アフガニスタン、スマトラ沖地震津波被災地などのアジアの問題、人々の営みを取材し雑誌、写真展などを通じて作品を発表。昨春、カンボジアのプノンペンに移り住み、取材活動を続けている。秋田魁新報社「素顔のカンボジア」でフォト＆ストーリーを連載中。

ＣＹＲの活動をご支援ください

年会費　正会員 ￥10,000　学生会員 ￥3,000　団体会員 ￥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便振替　No.00110-8-36227（特活）幼い難民を考える会　銀行振替　三菱東京 UFJ 銀行六本木支店（普）No.1351747
特定非営利活動法人　幼い難民を考える会

※CYRは認定 NPO 法人です。5,000 円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

〒 106-0046 東京都港区元麻布 3-2-20 丸統麻布ビル 2F
TEL：03-3796-6377　FAX：03-3796-6399
Email：info@cyr.or.jp
URL ：http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日 86 号
◆発行日：2008 年 6 月 5 日
◆発行人：深水正勝